

1968 年度総会議事録 (抄)

日 時 昭和43年5月28日 10時～12時

場 所 早稲田大学 小野記念講堂

<議題1の1 1967年度事業報告>

1. 主な会合

(1) 5月17, 18の両日, 東京芝浦電気(株)中央研究所に於いて, 1967年度総会および第21回研究発表会を開催した。研究発表は総数54件, 特別講演3件(特別テーマの「マーケティング」に関する研究発表11件, 特別講演1件)であった。

更に, 翌5月19日には東京芝浦電気(株)小向工場の見学および, 日本道路公団中央高速道路建設の諸工法を見学した。

(2) 11月8, 9の両日, 八幡製鉄(株)八幡製鉄所教育センターに於いて第22回研究発表会を開催した。研究発表は総数39件, パネル・ディスカッション1件, 特別講演4件(特別テーマの「公害」に関しては, パネルディスカッションおよび特別講演2件がこれにあてられた)であった。

更に, 翌11月10日には東洋陶器(株)本社工場を見学した。

2. 刊行物

「経営科学」第10巻3, 4号(合併), 第11巻1, 2号を発行した。

「JORS」Vol. 9, No. 2, 3, 4 Vol. 10 No. 1 & 2を発行した。

3. 国際協力

(1) ORAW (Operations Research Around The World Meetings)

本学会創立10周年記念行事の一環として ORAW に協力した。

わが国では8月14日, 京都(国立京都国際会館), 17, 18の両日, 東京(日本都市センター)においてOR研究発表会を開催した。

参加者数	京 都	113名
	東 京	152名
	賛助会員	87口(87名)
	外 国 人	26名

発表件数	特別講演	3件
	研究発表	45件

パネル・ディスカッション 2件であった。

(2) IAOR (International Abstracts in Opera-

tions Research) 前年度に引続き, IAOR のための国内 OR 文献の抄録活動ならびに IAOR. Vol. 7・No. 1～6の国内頒布に協力した。

4. 大西記念文献賞

大西記念文献賞選考委員会の推薦により理事会で受賞者を決定した。

5. 研究会活動

(1) 昨年に引続き国鉄より「線路増設時期を決定する諸要因に関する研究」の委託をうけたので委員会を構成し研究報告書を提出した。

(2) 研究専門委員会が設立され「スケジューリング応用部会」の設立が推進された。(昭和43年4月22日発足)

6. 支部活動

昭和42年9月日本OR学会東北支部が発足した。

7. 会員の状況

種 別	通常会員	学生会員	賛助会員
1966年度末	1,039	49	(社)103
1967年度入会	156	22	7
1967年度学生より移行	17	-17	0
1967年度退会	-40	-1	-7
1967年度整理	-41	-1	0
1967年度末	1,131	52	103

<議題1の2 1967年度決算報告>

貸借対照表

1968年3月31日現在

借 方		貸 方	
現 金	78,614	前期繰越金	2,009,135
振替貯金	5,736	前 受 金	143,124
小 切 手 座	499,467	未 払 金	784,589
普通預金	460,654	当期運営高残	1,264,577
当座預金	56,604		
定期預金	1,904,250		
未 収 金	1,081,000		
過 年 度 未 収 金	115,100		
合 計	4,201,425	合 計	4,201,425

収支計算書

自 1967年4月1日

至 1968年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
賛助会費	3,805,000	刊行費	1,792,541
入会金	150,084	大会費	780,152
会費	2,938,384	編集費	447,958
I FOR S費	105,080	会合費	202,443
受託研究費	600,000	通信費	536,316
賞金積立金	400,000	印刷費	360,128
ORAW費	2,668,571	人件費	1,135,822
雑収入	523,596	事務消耗品費	116,499
		旅費・交通費	181,315
		受託研究費	510,000
		手数料	45,040
		支部費	374,000
		I FOR S費	181,013
		ORAW費	2,665,436
		退職引当金	35,040
		雑費	54,435
		会費徴収不能	508,000
小計	11,190,715	小計	9,926,138
		当期運営残	1,264,577
合計	11,190,715	合計	11,190,715

<議題2の1 1968年度事業計画>

1. 研究発表会

春秋2回開催し、春季は東京において総会をかねて行ない、秋季は仙台において開催する。特別テーマは「地域開発」の予定。

2. 刊行物

「経営科学」および「JORSJ」を各4回発行する。

創立10周年記念特集号を発行する。

名簿の改訂版を発行する。

3. 国際協力

(1) IAORに協力する。

(2) 海外より来訪するOR専門家と接触の機会をつくる。

4. 研究会活動

必要に応じ研究専門委員会に部会を増置する。

5. 普及活動

講習会その他適当な普及活動を行なう。

6. 受賞推薦活動

松永賞その他受賞候補推薦に協力する。

7. 日本OR学会大西記念文献賞

第2回大西記念文献賞の選考を行なう。

8. 法人化を再検討する。

<議題2の2 1968年度予算>

借 方		貸 方	
科 目	予算額	科 目	予算額
賛助会費	4,500,000	刊行費	3,667,000
入会金	150,000	大会費	936,000
会費	2,502,000	編集費	537,000
IAOR費	80,000	通信費	715,000
未収金	781,000	会合費	296,000
過年度未収金	57,000	印刷費	432,000
雑収入	628,000	事務費	1,227,000
賞金積立金	200,000	消耗品費	139,000
前年度繰越金	2,862,000	旅費・交通費	228,000
受託研究費	0	手数料	54,000
ORAW費	0	研究会費	507,000
		I FOR S費	182,000
		支部費	496,000
		雑費	165,000
		大西賞賞金	100,000
		賞金積立金	500,000
		退声究立金	363,000
		予備費	1,216,000
計	11,760,000	計	11,760,000

<議題3 1968年度評議員の選出>

氏名	勤務先	氏名	勤務先
朝尾正	田辺製葉(株)	米谷栄二	京都電力(株)
浅野長一郎	塩野義製葉(株)	権藤次郎	中東電力(株)
石川幸夫	東国大鉄研	近藤久木英治	電部興産(株)
一出居茂	早大生産業(株)	佐々木恒一	宇計量計画研
井上文衛門	住友ゴム工業(株)	佐々木正文	防衛公
井上洋一	国際電機(株)	佐々木治信	電々阪
今川貞郎	三菱士通(株)	坂口実次	大北電力(株)
今村和昌	三富防衛院大	司馬松正保	九州電力(株)
弥永昌繁	学習院大	重柴田正恒	九広(株)
植木辰丙	古河電製鉄(株)	島田恒吉	名古屋大会
海辺不二雄	大東阪大	白根礼吉	科学技術と経済の
小笠原晧	東名古屋大	白新宮波三郎	広島子力(株)
小田部勝次	日本機械保大	野木和英	旭一シャイン大
小野木次郎	東京女子大	河内雄二	電通大
小河原正己	大阪公大	千住馬田和保	慶応村屋
大沢前義	大阪大	相田原高	(株)日立システム・エンジニアリング
大丘本二	秋防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	多田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	日本構造橋梁研
奥加藤二澄	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	早礼日大道道小東日三理東慶北海道電力
柏井清正	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	幌科阪路路樽
春日川清正	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
金松野津越田村安池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	大阪公
茅野津越田村安池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
唐河越田村安池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	海道電力
河越田村安池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
河村安池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	大阪公
菊池川田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
北田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	海道電力
櫛田沢暮瀬平林林	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
国木古小	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	大阪公
小古小	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
小林宏竜	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	海道電力
小林一旨	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応
河後藤	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	大阪公
後藤	防早武日松松下防米慶岩東九国東小第立早東大	田高松高武竹谷千津土刀戸中鍋西西野服	京建電科芝応

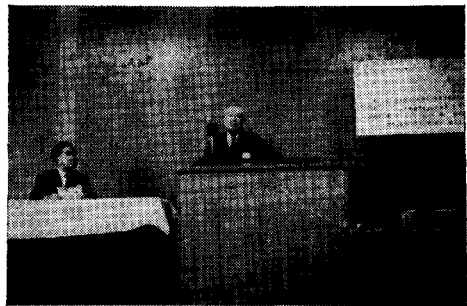
氏名	勤務先	氏名	勤務先
春山 巖	電々 公 社	南沢 宣郎	小野田セメント(株)
原野 秀永	東道 芝 (株)	宮沢 俊治	阪神高速道路公団
平野 和夫	名路 公 団	宮下 光一	東 京 大 大
飛田 武幸	豊古 中 大	宮脇 藤太郎	東 京 大 大
足田 遼太郎	広 田 島 大	村上 一男	大 道 路 公 団
福藤 治郎	早 稲 田 大	村手 永一	名 鉄 (株)
藤森 謙久	清 水 州 大	村中 光彦	運 輸 調 査 局
堀川 映一	九 東 電 東	本 告 光男	中 部 電 力 (株)
本多 波雄	東 電 東	森 繁 一	阪 神 高 速 道 路 公 団
本間 鶴千代	東 自 成	森 英 典	東 京 工 大 大
前島 健治	高 東 電	矢 矧 晴一	富 士 銀 行
前野 都治	東 電 東	矢 部 直	国 三 菱 電 機 (株)
牧野 元三郎	東 電 東	八 柳 山 山	慶 應 大 学 (株)
増山 康夫	北 電 公 力 (株)	山 山 山 山	信 越 芝 化 学 (株)
松田 正彰	早 東 近	山 湯 依 横	信 越 芝 化 学 (株)
松田 武彦	東 近 富	横 井 山 山	名 電 汽 大 (株)
松村 茂行	富 東 九	横 山 山 山	国 名 電 汽 大 (株)
三浦 上操	京 東 南	横 山 山 山	電 車 製 公 造 (株)
三根 善久	日 本 本	吉 渡 渡 渡	阪 日 電 力 (株)
御園 善一		渡 渡 渡	中 東 東
水谷 利雄			

＜議題4 大西賞授賞＞

審査委員長 東工大 松田武彦氏の審査経過の報告があつて(写真1)、慶応大学 柳井浩氏に会長 土光敏夫氏から賞状と副賞が授与された(写真2)、ついで基金を提供された大西定彦氏からあいさつがあつた(写真3)。



写
真
1



写
真
3



写
真
2

各支部 1967年度事業報告および1968年度予算

東北支部

1. 43年度支部総会

当支部総会は去る6月1日、会員20数名出席のもとに開かれた。

- (1) 42年度事業報告、収支決算
- (2) 43年度事業計画、予算
- (3) 秋季全国発表会準備について

今秋仙台開催の報告

準備運営委員会設置の報告

委員会規則、構成の報告

委員メンバー

委員長 御園生 善 尚 (東北大)
 委員 芳 賀 半次郎 (東北大)
 檢 山 啓 吾 (電通局)
 本 間 四 郎 (東北電力)
 関 弘 一 (東北金属)
 加賀田 晋 成 (東北地建)
 木 村 正 行 (東北大)
 石 丸 幹 芳 (河北新報)
 庄 司 恒 雄 (電通局)

(4) 役員改選

支部長 後 藤 壮 介 (東北電力)
 副支部長 本 多 波 雄 (東北大)
 春 山 巖 (電通局)
 評議員 小 野 重 典 (東北地建)
 加 藤 二 郎 (秋田大)
 鈴 木 重 典 (東北金属)
 富 田 耕 造 (河北新報)
 芳 賀 半次郎 (東北大)
 松 田 彰 (東北電力)
 御園生 善 尚 (東北大)
 吉 田 均 (電々公社)
 檢 山 啓 吾 (電通局)

監 事 三 国 文治郎 (東北電力)
 幹 事 本 間 四 郎 (東北電力)
 木 村 正 行 (東北大)
 関 弘 一 (東北金属)
 加賀田 晋 成 (東北地建)
 石 丸 幹 芳 (河北新報)
 庄 司 恒 雄 (電通局)

2. 事業報告

1. 主な会合

(1) 東北支部設立総会

42.9.23 仙台グランドホテル 出席会員40名
 記念講演会「東北開発について」 東北経済
 連 中村事務局長
 「経営管理の進歩とOR」 東芝 山口取締役
 祝 賀 会

(2) 支部役員会

i) 43年度秋季研究発表会開催に関するもの
 42.12.14 電通局会議室にて
 43年度秋季研究発表会を11月12.15.16日
 仙台市にて開催のこととする

ii) 秋季研究発表会特別テーマについて

43.1.30 電通局会議室
 「地域開発」と決定

iii) 43年度支部定期総会開催について

43.5.15 電通局会議室

2. 学会活動

OR講演会

42.10.14 「行動科学の諸問題」

一橋大 南 教授

42.12.8 「Dynamic Programing」

岩手大 小川教授

3. 会員の状況 賛助会員3 通常会員91

3. 収支決算

収 入		支 出	
予 算	決 算	予 算	決 算
本部交付金 49,000円 支部設立寄付金等34,850	本部交付金 49,000円 支部設立寄付金等36,100 銀行利子 28	OR講演会 (2千円×3回) 6,000円 講習会謝礼 45,000 研究会スト代 4,000 印刷費 10,000 事務費 10,000 通信費 3,000 予備費 5,850	OR講演会謝礼 3,000 " 2,000 役員会費 3,900 支部報告印刷代 12,000 繰越金 64,228
合 計 83,850円	85,128円	83,850円	85,128円

4. 43年度事業計画

1. 秋季全国研究発表会の開催

本部の計画にもとづき今秋の仙台市における
研究発表会の準備運営に協力する

2. 研究活動

全国研究発表会への積極的参加
支部研究会、講演会の開催

3. 普及活動

5. 43年度予算案

収 入		支 出	
本部交付金(見込)	49,000円	講演会謝礼(3千円×1回)	3,000円
前年度繰越金	64,228	研究会謝礼(1千円×3時間2回)	6,000
		印刷代	30,000
		通信費	5,000
		総会役員会費	25,000
		予備費	44,228
合 計	113,228円	合 計	113,228円

6. 秋季全国研究会準備について

43.11.14~15日発表会 16日見学会 金研等見
学、松島遊覧準備

運営委員会の設置

構成 委員長は評議員クラス、委員は学識者
幹事のほか各職場より選出

委員会規則

- 本部の計画にもとづき発表会開催の準備
運営をなすのを目的とする
- 委員会は前条の目的を達成するため支部
長の指示にもとづき計画を立案し実行する
ものとする
- 委員会の活動のための経費は予備費寄付
金等による支部経費を当る
- 委員会の構成

以 上

中部支部

1. 昭和42年度定期総会

- と き 5月26日(金) 17.00~18.00
- と ころ 中産連ビル
- 議 題 ①昭和41年度事業報告ならびに収支
決算承認の件
②昭和42年度事業計画ならびに収支
予算審議の件
③役員選任の件
④そ の 他

2. 運営協議委員会

- と き 5月23日(火) 18.00~19.00
- と ころ 中産連ビル
- 議 題 ①昭和41年度事業ならびに収支決算
報告と承認
②昭和42年度事業計画ならびに収支
予算審議
③役員改選

O R 研 究 会

月 日	と ころ	テ ー マ	発 表
4/21	中 産 連 ビ ル	「シミュレーションによる多 種類切符自動販売機的能力推 定」	名 古 屋 鉄 道 (株) 山 田 卓
5/26	"	「データーの追加修正に対す る最少自乗曲線の簡易修正 法」	中 部 電 力 (株) 企画部事務機械化担当 田 中 庸 平
6/22	"	「消費者の購買態度と名柄固 定について」	(株) 電 通 名 古 屋 支 社 マ ー ケ テ ィ ン グ 部 武 藤 博 道
7/25	"	「シミュレーションプログラ ムGASPの紹介」	日 本 ユ ニ バ ッ ク (株) 名 古 屋 営 業 所 久 保 井 雅 也
8/14	名古屋鉄道(株)本社	1. 海外の現況について 2. 名鉄バスターミナル概況 バスターミナル見学	名 古 屋 大 学 小 野 勝 次 支 部 長
10/20	中 産 連 ビ ル	「DYNAMO」	(株) 日 立 製 作 所 システム開発部応用開発課 松 原 課 長
12/22	"	「信頼性理論の展望」	名 古 屋 工 業 大 学 計 測 工 学 教 授 依 田 浩
1/26	"	「新しいプログラミング言語 PL-1について」	日 本 アイ ビ ー エ ム (株) シ ス テ ム 課 寺 園 孝
2/23	"	「駅名標示の簡素化につい て」	名 古 屋 鉄 道 (株) 電子計算センター部長 村 手 光 彦
3/22	"	「アメリカ電子計算機大型ユ ーザーを訪問した感想」	中 部 電 力 (株) 企画部事務機械化担当副主査 本 告 光 男

収 支 決 算 書

自 昭和42年4月1日
至 昭和43年3月31日

日本OR学会中部支部
O R 研 究 会

		学 会 支 部	O R 研 究 会	合 計
① 繰 越 金		(113,436)	(177,542)	(290,978)
収 入	会 費 収 入	380,000		380,000
	同 本 部 送 金	△297,000		△297,000
	(差引支部収入)	(83,000)		(83,000)
	(研究会収入)		(183,200)	(183,200)
	(雑収入)	(14,672)		(14,672)
② 当 期 計		(97,672)	(183,200)	(280,872)
③ = ① + ② 合 計		(211,108)	(360,742)	(571,850)
支 出	(旅費交通費)	(42,840)	(4,190)	(47,030)
	(会議会合費)	(18,643)	(1,710)	(20,353)
	(研究会費)		(7,140)	(7,140)
	(会場費)	(1,450)	(19,350)	(20,800)
	(印刷費)	(9,970)	(2,290)	(12,260)
	(通信費)		(10,861)	(10,861)
	(事務費)	(12,000)	(12,000)	(24,000)
	(消耗品費)			
(雑費)	(2,600)	(2,665)	(5,265)	
④ 当 期 計		(87,503)	(60,206)	(147,709)
当期収支差引 ② - ④		(10,169)	(122,994)	(133,163)
次期繰越 ③ - ④		(123,605)	(300,536)	(424,141)

貸借対照表

昭和43年3月31日現在

日本OR学会中部支部
OR研究会

科 目	金 額	科 目	金 額
現金	6,475	※未払金	393,674
銀行預金	811,340	OR学会繰越金	113,436
		OR研究会繰越金	177,542
		当期OR学会残高	10,169
		当期OR研究会残高	122,994
合 計	817,815	合 計	817,815

※当期末払金内訳

本部送金	297,000
事務管理費	24,000
中産連立替経費	72,674

会 務

1. 賛助会員の移動

	41年度	入 会	退 会	増 口	減 口	現 在
社 数	15	0	1	0	2	14
口 数	17	0	1	0	2	14

退 会 日本IBM(株)
減 口 (株)中部日本新聞社
中部電力(株)

2. OR研究会

	41年度	入 会	退 会	増 口	減 口	現 在
社 数	12	1	1	1	1	12
口 数	26	2	1	1	1	27

入 会 日本電信電話公社東海電気通信局
退 会 中京電機(株)
増 口 日本IBM(株)
減 口 日立システムエンジニアリング(株)

よって43年3月31日現在 12社27口

昭和43年度事業計画

(昭和43年4月～昭和44年3月)

日本OR学会中部支部
OR研究会

1. 会議
 1. 定期総会 期首 1回
 2. 運営協議委員会 2回
2. 事業
 1. 専門家による講演会 1～2回
 2. 月例研究会 毎月1回
 3. ゲストを招いての懇談会 3～4回

昭和43年度収支予算

(昭和43年4月～昭和44年3月)

日本学OR会中部支部
OR研究会

		学 会	研 究 会	合 計
繰 越 金		123,605	300,536	424,141
収 入	会費収入14口×@30,000	420,000		
	同本部送金	△333,000		
	支部収入 研究会収入27名×@6,000	87,000	162,000	87,000 162,000
	合 計	210,605	462,536	673,141
支 出	旅 費 交 通 費	25,000	15,000	40,000
	会 議 会 合 費	15,000	15,000	30,000
	研 究 会 費	10,000	70,000	80,000
	会 場 費	6,000	20,000	26,000
	印 刷 費	10,000	12,000	21,000
	通 信 費	3,000	10,000	13,000
	事 務 費	15,000	15,000	30,000
	雑 費 予 備 費	3,000 123,605	5,000 300,536	8,000 424,141
合 計		210,605	462,536	673,141

日本OR学会 中部支部役員名簿(昭和43年度)

中部支部役員

支 部 長	小 野 勝 次	名 古 屋 大 学 理 学 部	授 教
副 支 部 長	佐 藤 一 夫	(株) 中 部 日 本 新 聞 社	企 画 室 長
運 営 協 議 員	佐 藤 芳 郎	中 部 電 力 (株)	企 画 部 長
"	松 木 進	(社) 生 産 性 中 部 地 方 本 部	事 務 局 長
"	依 田 浩	名 古 屋 工 業 大 学	教 授
"	本 告 光 男	中 部 電 力 (株)	企 画 部 企 画 課 副 長
"	大 脇 錠 一	(株) 電 通 名 古 屋 支 社	マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 部 長
"	村 手 光 彦	名 古 屋 鉄 道 (株)	電 子 計 算 セ ン タ ー 部 長
"	天 野 菊 彦	(社) 中 部 産 業 連 盟	常 務 理 事
監 事	梅 田 俊 雄	中 部 火 力 工 事 (株)	取 締 役 社 長
"	白 尾 恒 吉	名 古 屋 大 学	教 授

O R 研 究 会 役 員

研 究 会 幹 事	榎 本 久 徳	中 部 電 力 (株)	企 画 部 企 画 課 兼 事 務 機 械 化 担 当
"	近 藤 喜 典	(株) 電 通 名 古 屋 支 社	マ ー ケ ッ テ ィ ン グ 副 部 長
"	森 葆	名 古 屋 鉄 道 (株)	電 子 計 算 セ ン タ ー 次 長

関 西 支 部

関西支部は、中部、九州及び中国・四国支部のあいづく分離によって、京阪神の学会及び業界を中心とするコンパクトな形となった。

このため、OR関係者間の意志の疎通連絡はよくなったが反面お互の研究内容が、本部研究発表会及びOR学会以外の会合でもよく知れるようになったため、支部独自の活動が多少低調になったきらいがあった。

本年度の支部活動は、その大部分をORAW京都セッションの実現に費している。

すなわち、5月18日の一部関係者の下打合せにつ

づいて、7月5日の本部第一回理事会の意向及び決定にもとづいて、7月13日及び24日に支部運営委員会を開き、これを討議した。

又その決論は、7月22日及び7月25日に理事の一人が上京する際に本部に連絡するという、あわたしき動きを示している。

更に8月8日には運営委員有志が、京都国際会議場における準備状況を視察し、同時に会議運営についてのOR的考察を行なった。この結果8月14日の会議は順調に進行し、成功裡に終えることができた。

本年度はその他には特筆すべき事業は行なってい

ない。

尚支部の事務局は1959年8月以来、日本規格協会
関西支部内に置かれていたが、本年4月よりは、

大阪市東区道修町三丁目

シオノギ解析センター

内に移転した。

永年にわたる日本規格協会関西支部の事務局の方
々の御世話に対して厚く感謝の意を表する次第である。
（前理事西田、朝尾(記)）

中国・四国支部

昭和42年度事業報告

主要事項

(1)42年6月10日 中国電力本社において、昭和42
年度総会および特別講演会を開催した。

題目 ORと予測

講師 東京工業大学教授

松田武彦

(2)42年6月20日 広島大学会館において、講演会
を開催した。

題目 スイッチ回路と人工頭脳

講師 ノースカロライナ州立大
学教授

伊藤誠

(3)42年9月30日 電源開発竹原火力発電所の見学
会を開催した。（電気四学会と
共催）

(4)42年10月6日 中国電力本社において講演会を
開催した（電気四学会と共催）

題目 電力系統の重大事故対策
について

講師 電力中央研究所電力第3
部 梅津照裕

(5)42年12月9日 広島大学工学部第1会議室にお
いて研究会を開催した。

(イ)題目 第14回TIMS国際会
議及びスペインORA
W会議に出席して

発表者 近畿大学教授

松富武雄

(ロ)題目 アメリカにおける最近
のPERTについて

発表者 中国電力K・K総合
機械化準備室

権藤元

(6)43年4月14.15日 計算機制御講習会を開催し
た。

（広島工業会、日本電気技
術協会、計測自動制御学会、
電子通信学会、電気学会各
中国支部と共催）

(7)42年5月10日、12月9日 運営協議会を開催し
た。

(8)会 員

	通常会員	学生会員	賛助会員
設 立 時	86	2	10
41 年 度 末	108	1	11
42 年 度 末	120	0	11

昭和42年度事業会計報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	1,010	通 信 費	4,268
本部交付金	74,000	印 刷 費	7,940
		会 合 費	3,730
		講 演 会 費	26,538
		事 務 費	12,000
		～ ～	3,009
		次期繰越金	17,525
合 計	75,010	合 計	75,010

昭和42年度日本オペレーションズ・リサーチ学会中
国四国支部事業会計報告を監査した結果適正である
ことを認めます。

昭和43年6月26日

日本オペレーションズリサーチ学会中国四
国支部

監 事 田 中 琢 磨 ㊞

監 事 松 縄 淳 ㊞

昭和43年度事業計画

1. 会 議

1) 総 会 1回

2) 運営協議会 2回

2. 事 業

1) 夏季研修会 会場 東洋工業(株)

期間 3日間

2) 講 演 会 年5回

外国人講師(1回予定)

3) 研 究 会 3カ月に1回(2件)

4) 普 及 活 動

- 1) 宇部を中心にした普及活動
 2) 四国地方における普及活動
 5) 賛助会員並びに一般会員の拡大
 追記：日本OR学会中国・四国支部を昭和43年7月
 1日より下記の場所に変更する。

郵便番号 737-01
 呉市広町
 近畿大学工学部経営工学科内
 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 中国・四国支部
 電話 0823-71-9171

昭和43年度収支予算

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	17,525	通 信 費	10,000
本部交付金	80,000	会 合 費	5,000
		印 刷 費	12,000
		事 務 費	12,000
		講 演 会 費	30,000
		研 究 会 費	15,000
		雑 費	3,525
		次期繰越金	10,000
	97,525		97,525

日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
役員名簿(昭和43年度)

支 部 長 佐々木 英 治 (宇部興産)
 副 支 部 長 柴 田 隆 史 (広島大学)
 運 営 協 議 員 青 木 兼 一 (広島大学)
 (50音順) 石 田 甫 (宇部興産)
 北 林 琢 男 (広島大学)
 木 村 三 郎 (中国電力)
 新 宮 哲 郎 (広島大学)
 田 中 琢 磨 (神戸製鋼所)
 広 瀬 嘉 道 (三井石油化学)
 福 田 治 郎 (広島大学)
 布 留 川 靖 (広島大学)
 松 富 武 雄 (近畿大学)
 松 野 五 郎 (松山商科大学)
 山 本 昌 (日新製鋼)
 山 本 純 恭 (広島大学)
 監 事 荒 川 正 介 (東洋工業)
 松 繩 淳 (国鉄中国支社)

九州支部

1 第3回支部総会議事概要

- ・日 時 63.5.10 <金> 16:30~17:30
 ・場 所 福岡 生産性九州地方本部セミナー室
 ・出席者 <50音順>
 内山 <八幡製鉄>, 瓜生 <日本アイ・ピー・エム>, 梅根 <西日本鉄道>, 江口 <九州電気通信局>, 大熊 <八幡製鉄>, 重松 <九州電力>, 西嶋 <八幡製鉄>, 三上 <九州大学>, 百瀬 <八幡製鉄>, 白崎 <事務局>
 ・議題および議事要旨

内山支部長があいさつの後、議長となり

- 1967年度事業報告と収支決算報告について
事務局幹事から、主な会合や活動の概要、会計の収支バランスなど会務を報告、承認<資料I参照>
- 1968年度事業計画と収支予算について
ついで、地区別研究会のバックアップ、部報の発行、支部交付金の運用等々につき説明、別紙のとおり協議決定<資料II参照>
- 役員の選出について
さらに役員の任期満了に伴う改選にうつり、満場一致、別掲のように決定された。<資料III参照>
- その他学会の近況

(1) 東北文部の発足、42.2.23 設立創会を開催し正式発足

(2) 秋季研究発表会の開催予定

(3) セミナー<PPBSとシステム分析>の紹介
日時：5/22~23

会場：麻布プリンスホテル

主催：経済団体連合会、日本OR学会
 など報告事項を終了、閉会した。

2 1967年度事業報告と収支決算

I 事業活動報告

1. 主な会合

(1) 第2回支部総会

日 時 42.7.28 <金> 10:00~12:00

場 所 北九州市・八幡製鉄所教育センター

議 題 ①1966年度事業報告と収支決算承認

②1967年度事業計画と収支予算審議

③支部運営協議員の補選

④秋季研究発表会について

⑤地区別研究会活動報告

(2) 第3回支部運営協議会

42.7.28 八幡製鉄所教育センターで支部運営協議会を開催し、午後は東洋陶器本社工場を訪

ね、工場見学会についての調査打合せを行なった。

(3) 秋季研究発表会実行委員会

11月北九州市で開催される秋季研究発表会の準備運営に協力するため、在福の会員を中心に実行委員会を組織、10月12日八幡製鉄教育センター会議室に、内山、三上、堀川、若林、麻上、瓜生、浜口、梅本、梅根、福田、葛原、安部の12委員が参集、会場、懇親会、工場見学、観光、大会運営等について討議し、各委員が分担、本部役員幹事と協同して推進することを申合わせた。

分担 総活内山、特別講演三上、庶務会計若林、手島、連絡白崎、会場受付西木、葛原、懇親会堀川、浜口、見学会瓜生、末次、梅本、観光梅根。

2. 研究会活動

(1) 1967年度秋季研究発表会

秋の研究発表会は、11月8,9の両日、当支部が幹事役となり、北九州市・八幡製鉄所教育センターで開かれた。

研究発表は一般39件、特別講演4件で、今回は「公害」を特別テーマにとりあげ、パネルディスカッションが行なわれた。恒例の懇親パーティは8日の夜小倉ステーションホテルで、山口、松田、内山の副会長をはじめ70余名が参加、若手の新顔が多く愉快に歓談盛況であった。10日は見学会で、東洋陶器本社〈小倉〉工場を見学し、多彩なプログラムを順調に終了することができた。

ちなみに、当支部は実行委員会を構成し、大会の開催準備と運営に協力、なお地元からはつぎのとおり特別講演件とパネルディスカッションに参加、2件の研究発表が行なわれた。

特別講演「鉄鋼業における大気汚染防止対策」

八幡製鉄・計画部副長

設 楽 正 雄 氏

パネルディスカッション「公害とOR」

九州工業大学・教授

上 滝 具 貞 氏

八幡製鉄熱・技術課長

岡 田 芳 太 郎 氏

研究発表「シミュレーションの複合化について」

八幡製鉄・工場診断課

麻 上 俊 康 氏

「シミュレーションによる柱上変圧器更新問題の検討」

九州電力・管理室

内 村 桂 典 氏

(2) 地区別研究会活動

福岡・九州・周南の各研究会ごとに、それぞれ地域活動の性格にしたがい、情報の交換、技術の交流研鑽を主に講演等を加え、自主的に企画運営するよう推進してきた。

最近の主な研究テーマは別表のとおりである。

(3) ORAW 〈Operations Research Around the World Meetings〉

8月14日から18日まで京都および東京で、国際的なOR研究発表会が開催され、九州からは八幡製鉄、九州電力が参加した。

3. 教育活動その他

(1) ORを中心とした経営科学基礎コースの開催

九州IE協会主催、当支部後援のOR基礎コースが、9月21日から10月18日まで〈8日間〉福岡市民会館国際会議室で開催された。

講師団はつぎのとおり、参加者は第2次産業13社、第3次産業10社計24社37名で、なかなか好評のようであった。

講 師 日本IE協会常任委員、九州IE協会理事運営委員

日本OR学会理事、同九州支部副部長支

日本規格協会委員 三上 操氏

特別講演 「現代経営におけるORの理念と役割」

日本IE協会運営委員、九州IE協会理事運営委員長

日本OR学会副会長、同九州支部長

内山辰丙氏

座 談 会 「マネジメントはORをいかに活用すべきか」

司 会 九州大学・工学部教授

三上 操氏

出 席 者 八幡製鉄所・副技師長

内山辰丙氏

西日本鉄道・監理部長

梅 根定氏

(2) 企業内OR導入教室に協力

①日 時 42.8.21~26 〈40時間〉

- ②内 容 管理者のためのOR入門
 ③講 師 九州大学・工学部教授 三上 操氏
 ④対 象 九州電気通信局 管理
 職35名

(3) OR資料の紹介2件

- ・鉄鋼のためのPERT〈日本鉄鋼連盟発行
- ・JISオペレーションズ・リサーチ用語〈日本規格協会発行〉

PERTについては、当支部事務局で、またOR用語は日本規格協会福岡支部で、それぞれ購入の斡旋をした。

4. 会員の状況〈43.4現在〉

年 度	通常会員	学生会員	賛助会員
1965	20	0	5〈10〉
1966	47	0	4〈8〉
1967	52	0	4〈8〉

II 収 支 決 算〈42.4.1~43.3.31〉

項 目		予 算	決 算
収 入	1. 1966年度より繰越金	28,435円	28,435円
	2. 支 部 費	48,000	48,000
	3. 雑 収 入	565	631
	預金利息 上期分		237
	下期分		394
	合 計	77,000	77,066
支 出	1. 会 議 費	40,000	18,675
	(1) 支部総会費	30,000	12,155
	(2) 運営協議会費	10,000	6,520
	2. 研究講演会費	20,000	0
	3. 通信連絡費	3,000	250
	4. 予 備 費	14,000	6,760
	合 計	77,000	25,685
1968年度へ繰越金		0円	51,381円

- 注 1. 予備費〈秋季研究発表会関連費用〉6,760円
 2. 富士銀行普通預金在高 51,381円

3 1968年度事業計画と収支予算

I 事業計画

1. 研究活動

- (1) 活発なORの推進と応用研究による技術交流、相互啓発〈学会〉
- (2) 各地区における調査研究活動のバック・アップ〈地区別研究会〉

2. 普及活動と会員の増大

- (1) 企業へのORの普及、導入指導
- (2) 講演および工場見学会の企画実施

3. 教育活動その他

- (1) 経営科学推進のための教育、ORワーカーの育成
- (2) OR関係の図書文献資料の紹介、部報の作

成、配布

(3) 関連諸団体との連携協同

活 動 要 項

◇学 会〈1968年度〉

1. 総会および春季研究発表会

- (1) 期 日 5月28日〈火〉~30日〈土〉

- (2) 会 場 早稲田大学小野記念講堂〈新宿区戸塚町1丁目〉

- (3) 特別テーマ：信頼性

- (4) 研究発表〈支部関係〉

「資源制限型スケジューリングの最適解」

九州大学・工学部生産機械工学教室

須 永 照 雄 氏

2. 秋季研究発表会

- (1) 期 日 11月中旬
 (2) 会 場 宮城県県民会館〈東北・仙台〉
 (3) 特別テーマ：地域開発

3. 評議員会・理事会

◇地区別研究会

原則として毎期または隔月1回、参加者相互による事例の発表と討論によるケーススタディを行ない、企業の実際に即したORの適用についてその向上をはかる共同研究の場として開催する。

- ・福岡地区OR研究会 43/6.9.12 44/3
4回開催
- ・九州OR共同研究会 43/5.8.11 44/2
4回開催
- ・周南地区研究会 43/5.7.9.11 44/1.1
6回開催

◇第2回OR基礎コース

〈生産性九州地方本部・九州IE協会主催、日本OR学会九州支部協賛〉

このコースは、経営者をはじめマネジメント各階層の管理職や部門スタッフのため、複雑な経営上の諸問題の解決にORをどのように役立てるか、また問題をどのように発見し設定し解決するかを、ORの基本を強調しながら手法の有用性を

できるだけとり扱いやすい形で紹介し、企業内ORで理解できる人材の養成をねらいとしている。

講 師 九州大学工学部応用推計学講座担当

三 上 操 氏

期 間 前期 43.5.23〈木〉～25〈土〉 3日間
 中期 43.6.7〈金〉～8〈土〉 2日間
 後期 43.6.20〈木〉～22〈土〉 3日間

会 場 福岡〈富士ビル〉日本生産性九州地方本部セミナー室

申込・問い合わせ先

福岡市天神2丁目8-49〈福岡富士ビル6階〉

財団法人 日本生産性九州地方本部

教育部第二課 電 77-6481

◇部報の作成および配布

会員相互間のつながりを深めるため、本年度から部報〈OR九州〉を発行する。みんな忙しく会合に全員出席とはいかないので、意見の交換や研究会などの現況を全員に伝えることを目的に、年4回〈季毎に〉作成配布する。

◇会員の普及PR

関係諸機関と協同して、講演会、見学会の開催、部報による研究会活動の運営などを行なう。

II 収 支 予 算 〈43.4.1～44.3.31〉

項 目		金 額
収 入	1. 1967年度より繰越金	51,381円
	2. 支 部 費	48,000
	(1) 賛助会費分	8,000円
	(2) 通常会費分	40,000
3. 雑 収 入	619	
合 計		100,000
支 出	1. 会 議 費	35,000
	(1) 支部総会費	15,000
	(2) " 運営協議会費	10,000
	(3) 本部会議費	10,000
	2. 研究講演会費	40,900
3. 部 報 費 5,000円/回×4	20,000	
4. 通 信 連 絡 費	3,000	
5. 予 備 費	2,000	
合 計		100,000

注 1. 本部より交付される支部費の計上は一応前年度をベースにした。

2. 新らしく、支出の部に本部会議費、部報費の項目を設定した。

4 支 部 役 員 (1968年度)

役 名	氏 名	勤 務 先 ・ 役 職	電 話
支 部 長	内 山 辰 丙	八幡製鉄所副技師長	<093> 67-0311
副 支 部 長	三 上 操	九州大学工学部教授	<092> 64-1101
支 部 運 営 協 議 員	堀 川 映 二	九州工業大学機械工学科教授	<093> 87-1931
"	重 松 保 秀	九州電力(株) 管理室次長	<092> 76-3031
"	西 木 俊 彦	八幡製鉄所八幡製造所 標準部工場診断課課員	<093> 67-0311
"	瓜 生 精 四 郎	日本アイ・ビー・エム装置工業 営業部第一営業所	<093> 54-3031
"	梅 根 定	西日本鉄道(株) 管理部長	<092> 76-6631

5 地 区 別 研 究 会 発 表 事 例 一 覧

(1) 福岡地区OR研究会

構成メンバー〈九電, 西鉄, 西部ガス〉

回	時 期	研 究 テ ー マ	発 表 者
11	42. 6	シミュレーションによる当直人員の検討	九 電
		自動車整備部門のワークサンプリング実施例について	西 鉄
		ガス漏洩率について	西 部 ガ ス
12	42. 10	PERT適用例〈送電線工事〉について	九 電
		エンジン・オーバーホール時期決定について	西 鉄
13	42. 12	柱上変圧器の器種選定について	九 電
		複写業務の改善について	西 鉄
14	43. 3	バラセメントの抜取検査について	九 電
		大牟田線駅務掛窓口数決定	西 鉄
		標準気温における販売量の推定について	西 部 ガ ス

(2) 九州OR共同研究会

構成メンバー (八幡製鉄八幡, 住友金属小倉, 九州電力, 八幡化学戸畑, 安川電機)
(西日本鉄道, 三菱化成黒崎, 黒崎窯業, 日本板硝子若松<開催順回>)

#	時 期	場 所	参加人員	研 究 テ ー マ		発 表 者
19	42. 5. 26	三菱化成黒崎工場 協和会館	46	共	計数業務の運営について	三菱化成 黒崎工場
				事	埠頭の地盤安定度計算例	
					当工場製品の輸送合理化について	
	経営におけるコンピュータ利用の今後 <大阪大学教授 横山保氏講演>					
20	42. 8. 25	黒崎窯業本社	44	共	総合生産性指数による評価制度について	黒崎窯業
				事	補修作業の要員設定について	
					原料の最適保有量の検討	
					モンテカルロ・シミュレーターの開発とその応用	
21	42. 11. 1	日本板硝子 若松工場	46	共	当社におけるコンピューターの利用について	日本板硝子 若松工場
				事	最適掛合せへのLPの適用	
					適正通函在積数の決定モデルについて	
22	43. 2. 23	八幡製鉄所 教育センター	51	共	経営管理機能の考察	八幡製鉄
				事	計量モデルによる日本経済の予測	
					鋳型需給管理システムの改善について	
					分割法によるシミュレーション方法の開発	

注 1. 共……共同研究会, 事……事例研究会

2. 発足以来5年, 会員相互の親睦をはかるため, 43. 2. 23 研究会終了後, 千草ホテルで夕食懇談会を開催, 現在までの研究会活動の成果をもとに, 今後の方向づけと運営について自由な意見を交換し, 参加者の交流を深めた。〈出席者30名〉

(3) 周南地区5社研究会

構成メンバー〈東洋鋼板, 日新製鋼, 徳山曹達, 八幡製鉄光, 八幡鋼管光〉

回	時 期	場 所	参加人員	研 究 テ ー マ	発 表 者
42-1	42. 5. 27	日 新・呉	18	請負制度について	東洋鋼板 日新製鋼 徳山曹達 光製鉄 八幡鋼管
2	42. 7・22	光 製 鉄	22	標準時間による設備作業管理について	
3	42. 9. 23	徳山曹達	19	工程管理の改善事例	
4	42. 11. 18	東洋鋼板	21	原価系列の事務機械化について	
5	43. 1. 27	日新・周南	20	設備保全の採算分析と管理方式の改善	
6	43. 3. 31	" 呉	17	ZD・QC運動の実例	

注 42.4.15 本年度第1回幹事会が開催され、42年度の成果反省と43年度の研究課題について打合せを行なった。

科学警察研究所見学記

1968年度春季研究発表会第3日を終えた5月30日午後1時、総長選挙問題で騒然としている早稲田大学をバスで出発した会員45名は、千代田区三番町の科学警察研究所へ向った。ところが途中、目的地へ向う一方通行路を通り過ぎてしまい、国鉄矢部氏の名ガイド? 付で中央官庁街の見学も兼ねてしまった(カゲの声「どうしてうぐいす嬢にしゃべらせないんだ」)。

皇居の千鳥ヶ淵公園に面する科学警察研究所は、前身は警察庁付属機関として昭和23年に設置された科学捜査研究所で、昭和34年に防犯少年部と交通部を加えて改称され、警察活動全般にわたる総合研究所として、警察活動に関する科学的研究、実験とその応用の鑑定検査を行なっている。

建物は継ぎ足し継ぎ足しで調和の美とはほど遠く、その発展の跡をそのまま示している。所長は有

名な法医学者の与畑種基博士である。所長が研究者のせいかな、ここではいわゆる警察的雰囲気は見られない。

われわれは全般的説明、映画の後、2班にわかれて法医学研究室と物理研究室を見学し、最後に参考資料室を見た(科学捜査部は、法医、化学、物理、火災、機械、文書、心理の研究室にわかれている)。

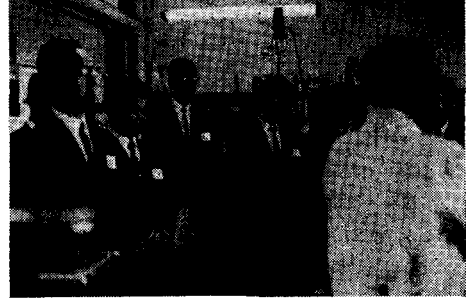
私達の班はまず物理研究室で声紋による個人識別を行なうソナグラフ装置を見た。何か言ってくれといわれてしばらくもじもじしていた東芝の原野さん、やがて意を決して「本日は晴天なり」。これを何回も再成しながら特定周波数のみ取り出してグラフに画くわけである。時間節約のため回転数を上げるので、再成音は超ソプラノ。爆笑となる。これをバックに説明を聞く。どんなに声を作ってもまた録音が悪くとも同一人は特定パターンを示し、また

「ア」なら「ア」の本質のパターンは簡単で、ざっとグラフに書くだけでちゃんと「ア」と聞えるそうである。O R のモデルと実際との関係を思わせる。

法医研究室では血液の話聞く。血液型の変化の話が面白い。



最後に参考資料室で各種資料を見る。偽造通貨や高杉晋作などの手配書もある。写真は自由にとってよかったが、殺人事件に関する写真はついにとれなかった。(下城記)



研究発表プログラム

(※印発表者)

1968年5月28日 第1会場 (小野記念講堂)

- 1) 特別講演
声の個人識別と音声の合成—声紋—
……………科学警察研 鈴木松美
- 2) 窓口で優先順位のある待ち行列
……………東京理科大 津村善郎
- 3) Time mark を持つ待ち行列モデルの一解法
……………電通研 中村義作
- 4) 変動する窓口の数を待つ待ち行列
……………名城大 中川覃夫
- 5) T S S に関連する待ち行列について
……………広島大 福田治郎
- 6) 特別講演
マン・マシンシステムの歴史とその未来像
……………早稲田大 高木純一
- 第2会場 (大隈小講堂)
- 7) A Dynamic Allocation of Advertising Expenditures on the Unstable Coupled Market
……………京都大 三根久
……………尾崎俊治※
- 8) On the Sales Promotion for the Learning Model
……………京都大 三根久
……………大田友房※
- 9) 行列簿記とそのマルコフ分析
……………大阪府大 浅井勇夫
- 10) 会計監査における非違発見モデルの予備的考

- 察 ……………国税庁 赤池仁※
……………日立システム 多田和夫
- 11) 航空原動機整備システムの信頼性に関する一考察
……………慶応義塾大 下郷太郎
- 5月29日 第1会場 (小野記念講堂)
- 1) ある領域における最小自乗法について
……………大谷技術短大 野田竜夫
- 2) 次元数の異なる連続分布の情報量比較
……………中国電力 本田公韶
- 3) 計算組織のシミュレーションの特徴
……………九州大 牛島和夫
- 4) Reject Allowance Problems
……………神戸商大 梅林光寿
- 5) 情報路行列による取替要因の解析
……………電々公社 江副力
- 6) 在庫のコオーディネーション機能に関する研究行動モデルによるシミュレーション
……………東工大 松田武彦
……………関口光晴※
- 7) O・Rの手法の保護に関する若干の提案
……………追手門学院大 目崎憲司
- 8) Reliability Aspects of Complex Systems
……………京都大 三根久
……………尾崎俊治※
- 9) Some Considerations on Age Replacement
……………京都大 三根久

- 朝倉立行※
- 10) 瞬間平均故障率について
 ……東京理科大 津村善郎
 高崎経済大 牧野都治※
- 11) 信頼性における2.3の統計的手法について
 ……東工大 真壁 肇※
 横浜国大 神沼靖子
- 12) ノモグラフによる最適値決定
 ……防衛大 佐々木正文
- 13) 特別講演
 信頼性技術の動向
 ……電気試験所 塩見 弘
- 14) A Note on the Reliability of Restorable System
 ……早大 藤沢武久
- 15) 誤り指示器の故障を考慮した重冗長修理系の信頼度について
 ……名古屋大 稲垣康善※
 ” 伊藤 誠
 ” 福村見夫
- 16) 信頼度の立場からみた回路モジュール設計法の比較……日立製作所 菅野文友
第2会場 (大隈小講堂)
- 17) 整数線形計画法における基底, 目的関数の値, 解の非存在の関係
 ……日立中研 江藤 肇
- 18) Branch and Bound 法にもとづく擬似プール計画法のアルゴリズムとその応用について
 ……名古屋大 吉田雄二
- 19) Mixed Integer Programming の新アルゴリズム ……住友金属中研 阿澄一寛※
 ” 中川 勝
 ” 徳山博子
- 20) 0-1変数よりなる線形計画問題に対するプール代数的解法
 ……京大 三根久
 ” 成久洋之※
- 21) An Additive Algorithm for Solving Weighted Distribution Linear Program With Zero-One Variable
 ……京大 三根久
 ” 成久洋之
 神戸製鋼 大崎喜之※
- 22) 最適ネットワーク構成に関する一考察
 ……大阪大 平尾直
- 23) 分割可能な作業を有するプロジェクトの日程計画 ……東京大 古林隆
- 24) 資源制限型スケジューリングの最適解
 ……九州大 須永照雄
- 25) Optimal Decision Rule under Partial Observation
 ……統数研 渡辺 浩
- 26) Cutting Plane Method についての一考察
 ……京大 三根久
 ” 成久洋之※
 住友銀行 笠井雅雄
- 27) Linear Programming and Markovian Decision Processes
 ……京大 三根久
 ” 尾崎俊治※
- 5月30日 第1会場 (小野記念会講堂)**
- 1) Two-Lane Highway-Crossing Problem with Waiting Area
 ……京大 三根久
 ” 長田博※
- 2) Some Results in the Intersection Delay Problem with Correlated Gap Acceptance
 ……京大 三根久
 ” 三村 猛※
- 3) A Study of Traffic Assignment to Arterial Street Network
 ……北海道大 山村悦夫
- 4) 国産輸送機のOR
 ……東京大 近藤次郎
- 5) 擬グイヤモデルによる線路容量算定
 ……東工大 森村英典
第2会場 (大隈小講堂)
- 6) 離散的な最大原理を用いたループを含まない電力系統の最大電力問題
 ……広島大 青木兼一※
 ” 平木秀作
- 7) 林業生産システムの最適化
 ……東京大 白井良明
- 8) 最適在庫過程の解析的・数値的研究-I
 ……都立工短大 小田中敏男

お 知 ら せ

研究専門委員会規程にもとづき、電気事業における「オペレーションズ・リサーチの理論と応用」に関する専門的研究を目的として、電力部会が10月に

発足し、第1回部会が秋季研究発表会の前日仙台市で開かれました。その議事要旨は次のとおりです。

OR 学会電力部会第1回定例部会議事録

1. 期 日 1968年11月13日
2. 場 所 東北電力会議室
3. 議 事

A) 委 員 会

- (1) 経過報告
- (2) 会則の決定
- (3) 副主査の選出
会則第4条により副主査として東京電力・井上修氏(総合能力開発本部情報管理課長)および関西電力・臼井右友氏(社長室企画部付)が選出された。

(4) 今後の運営

i) 運営方針

ORの性格上、分析対象を中心に研究すべきではあるが、当面、OR手法を中心に取扱う。

ii) 次回テーマ

「確率統計と予測」

(5) 出席者省略

B) 研 究 会

- (1) PFRT 技法の諸問題 中川友康(電力中研)
- (2) 米国における PERT 権藤 元(中国電力)
- (3) 各社 PERT 利用状況報告 各社
- (4) パネル討論
討論者 中川(電研・司会), 岡崎(東北電力), 本告(中部電力), 権藤(中国電力), 山田(九州電力)

i) PERT 導入

ii) PERT 分野

iii) 業者との関連

iv) PERT と企業経営

(5) 出席者省略

* Scheduling 応用部会・報告 *

- ・7月度 8月度は幹事渡米のため中止
- ・9月度 9/13 海上自衛隊需給統制隊管理部見学
参加者6名
- ・10月度 10/24 三菱原子力第1会議室
(i) オンライン・システムにおける連携
合わせ問題 齊藤富彦君(日電)
(ii) MIT サマーセミナーに参加して
原 亨君(富士通)
参加者13名
- ・11月度 11/21 三菱原子力第1会議室
工作機械の群管理システム

研野和人先生(機械試験所)

参加者6名

- ・12月度予定 12/19(木) 午後1時30分～5時00分
三菱原子力(株)第1会議室
TEL(201)6521 会場係・武川博臣君
※ 基準日程設定に関する2・3の
考察

早大生産研・中根甚一郎君

参加希望の方は会場係又は幹事(富士通 216-3211 EX 511 原)まで御連絡下さい。